（様式第４号）　　**上田西部地域協議会　会議概要**

１ 審議会名	上田西部地域協議会
２ 日　　時	令和３年４月 12 日　午後７時 00 分から午後８時 30 分まで
３ 会　　場	西部公民館　第５学習室
４ 出 席 者	小川委員、黒澤委員、佐藤祥一委員、菅沼委員、竹内委員、立木委員、宮﨑委員、宮島委員、向山委員、湯田委員、依田委員
５ 市側出席者	【事務局】小山西部地域振興政策幹、片山地域内分権推進担当係長、芳池地域内分権推進担当主事
６ 公開･非公開	公　開　・　一部公開　・　非公開
７ 傍 聴 者	０人　　記者　０人
８ 会議概要作成年月日	令和３年４月 15 日

協　議　事　項　等

次第

1　開会
2　会長あいさつ
3　自己紹介
4　会議事項
(1)演題「西部地域の防災への取組状況について」
講師　小市　武志　氏　（西部自治会連合会長、西部地域まちづくりの会　防犯・防災部会長）

(2)防災についての意見交換
(委員)台風 19 号災害時、西部公民館に避難したが、何も防災備品がなかったと聞いた。鎌原自治会でも矢出沢川が流れており、川が溢れた時には自治会館と同じ高さとなる。西小学校と上田城跡公園体育館が避難場所になっている。実際避難した場合に設備・防災備品は揃っているのか。

(講師)西部公民館を建てる時に、地下タンクを設けて災害時に水の使用、簡易トイレの設置、備蓄倉庫の設置等要望を出したが、全部通らなかった。市の備蓄計画では中学校単位で設置としていた。この地区は第三中学校が該当するが、坂道を登っての避難は難しいため、西部公民館を避難場所に指定して欲しいと要望し、ようやく指定された。西小学校には防災備品はないが、上田城跡公園体育館の方にはある。ホームページを見ると、どのようなものがどれくらい備蓄されているか、一覧で見ることができる。
災害が起きた場合、市職員は役割分担がされていて、各指定避難場所に 1～2 人配置するのが限度のため、食糧への対応には 2～3 日かかってしまう。その間は個人で用意しておかなければならない。

(委員)自主防災組織図で、自治会の役員が変わった際、組織図のほとんどの名前を入れ替える。役員を当てはめて名簿を作っているからなのだが、どこの自治会も同じではないか。元警察官、消防団経験者、元消防署員などの方々が、アドバイザー・相談役として自主防災組織に入ってもらうような組織を作る努力をしていかないと、いざ、災害が起きたとき全く役に立たない組織図になってしまう。自治会役員も昼間勤めているため、災害時、勤め先を放り出して住んでいる地域に掛けつけることはできない。自治会の自主防災組織の中でも、災害時かけつけられる大半が高齢者となる。行政は組織図の提出を求めるが、実用

性のない物の提出を求められても困る。行政がこのようにやるから、自治会はこの部分を協力して欲しいと言われれば納得して協力できる。

(講師)新屋自治会の自主防災組織でも、環境衛生部は通報係、体育部は避難誘導係等決めているが、毎年人が代わる。過去に炊き出し・消火訓練を行ったが、せっかく訓練しても翌年には人が交代してしまい継続性がない。

(委員)自分の地域で火事があった時、当時の自治会長さんは炊き出しということで女性学級さんへ頼み、消防団へのおにぎり等作っていただいた。実際問題として、炊き出しをやるということになると、女性に頼らざるを得ない。それを考えると、女性学級を充実させることの方が現実的ではないか。絵にかいた組織図は要らない。

(講師)一番困るのが、西部地区は高齢化率が高いから、避難誘導をどうやって通達するか。高齢者はネットで検索はできないので、結局、隣組のような組織で組長が連絡することになる。自治会の中でＩＴ に長けている人を何名か指名しておいて、その方から情報を得る方法もある。数年もすれば、自治会の役員もネットを使いこなせる人材がほとんどになるので、一つの方法かと思う。

(委員)今までは防災訓練というと、消防団が来て消火訓練をする程度だった。実際に災害が起きた時に役立つかと言われれば、そうではない。組織図も名前だけ入れ替えて提出していた。これでは意味がないので今改革をしている。自主防災組織をいかに充実させるかについて、プロジェクトチームを作って１年かけて取り組んだ。まず一番先にやったのは、市から配られたマニュアルをチームで読み砕いて自分の自治会に即した内容に作り替えた。自主防災組織の中に消防経験者を災害対策班というように組織作りした。どのレベルの災害がおきた時どこまで召集するか、そこまで決めておかないと、実際役に立たない。防災訓練をやるにしても、組織の中で何度もやり込み、その後で住民を巻き込む形にしないと中途半端になるだけ。実際に役立つ自主防災組織作りの大変さを感じているところ。
塩尻小学校に備蓄倉庫があるが、市職員もしくは学校職員が来ないと鍵が開かない。そのため自治会でも鍵を管理したいと要望したが、上田市全体の為の備蓄品にあたるため、一部地区のみでの使用はできないとの回答だった。改めて自治会独自に備蓄品の準備が必要になるということが分かり、取組みを始めている。

(委員)自分の身は自分で守る「自助」が一番大事になる。最終的には自分で全部用意をしておかなくてはいけないのかなという考えに至る途中。

(委員)ペットを飼っている家庭が多い。避難所にペットを連れて行かれないというのをテレビで見たが、犬や猫はどうなってしまうのか。災害と言っても人間だけでなくペットも災害に遭うわけだから、そこを織り込みながら防災を考えていかないと。飼い主にとってはペットも家族となる。

(委員)指定避難所を開設したが、いくら新しく整備をしても、何人収容できるものか。もしまともに全員が避難してきたらとても入れない。誰を優先して避難させるのか非常に難しい。屋根瓦が飛んでいる中で避難所を開設しても避難誘導できるか。強制的に避難させるのには相当な設備と訓練、自信がないとでき

ない。

(講師)西部公民館において 4 ㎡で割ったコロナ禍で収容できる人数は 150 人程度と資料で読んだことがある。150 人ではかなり選りすぐらないと対応できない。

(会長)これまで上田市のハザードマップはあったが、詳細の地図はなかった。今回、資料として見せていただいたものは詳細が分かり易い。自宅の浸水区域も分かる為、自宅の 2 階に避難が可能等、避難の判断基準になる。また、アパートに住んでいる人の把握は自治会の皆さんも苦労しているかと思う。マップ上にも名前が載ってこない為、要支援者の方が住んでいるかどうかわからない。情報の把握の仕方をどうすればいいか、課題に感じた。
台風 19 号の際、避難するかしないか判断が難しいところで、警戒レベル 4 が出たら避難しようと決めていたので避難行動ができた。自宅にいた方が安全だという場合もあるので、どの場合は避難所に行くというようなフローのようなものがあると、判断基準になるかと思う。
例えば、車でスーパーに避難した人の場合、その人は避難所に居ない。そうなると、どこに避難したのか、もしかしたら被害に遭っているのではとなってしまう。避難行動の把握の難しさも感じた。
市の備蓄倉庫が自由に使用できないのであれば、小規模分散型で、自治会で使用できる備蓄倉庫の準備が非常に大切。

(事務局)次回、危機管理防災課に説明を依頼するにあたって、聞きたいことなどを集約し、それに基づいて説明を聞く方が効率的と思う。説明を主にするか意見交換に重きを置く方がよいのか。

(会長)希望する内容を書いて事務局へ提出する形でよいか。
それを受けて、危機管理防災課に説明を依頼する。

(委員)台風 19 号時の行動・課題についてそれぞれ出し合い、竹内会長にまとめていただいた。今日講演いただいた内容も含めて課題が色々あると思う。もう少し整理が必要。協議会としてどういった提言ができるか。

(事務局)危機管理防災課で取りまとめた台風 19 号の対応検証報告書を配布した。
市のホームページにも掲載されている。今日ここで話したことに加え、この検証報告書をご覧いただいたうえで、危機管理防災課に聞きたいことを挙げてほしい。

(会長)4 月 30 日までに事務局へ提出ということでお願いしたい。

(3)その他
まちづくり総合計画の冊子を配布しましたので、ご覧ください。

(会長)次回の開催は、5 月半ばあたりを予定。
5　閉会